

エコダイヤキーパー

ECO DIAMOND KEEPER

メンテナンス

作業マニュアル

Aメンテナンス

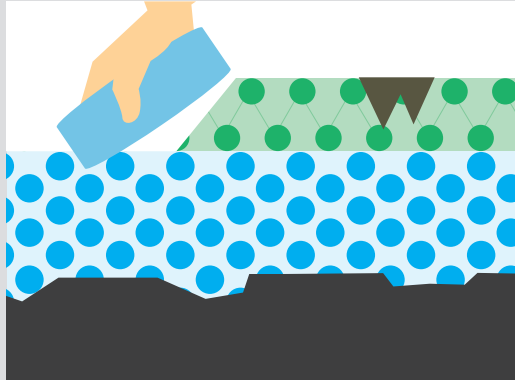
P1~P11

Bメンテナンス

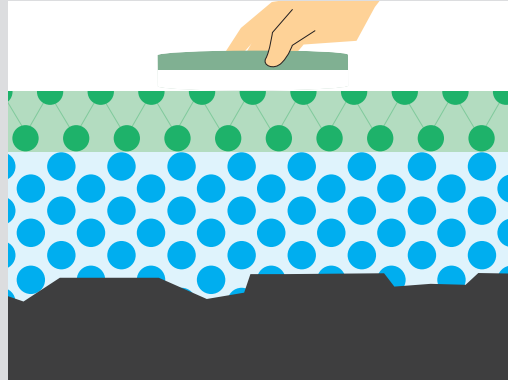
P13~21

A メンテナンス

Aメンテナンスは新鮮なECOプラスレジンを被膜に入れ替えます。



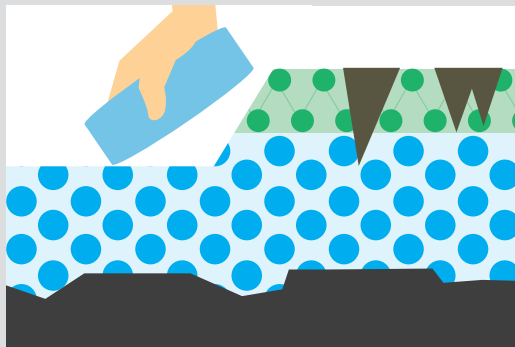
Eクリーナーでコーティング被膜を洗浄し



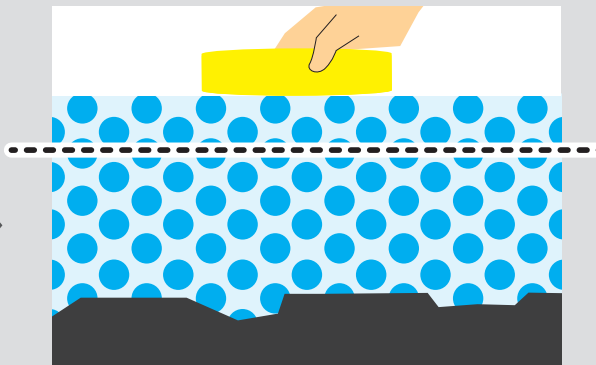
新鮮なECOプラスレジンを被膜に入れ替える

B メンテナンス

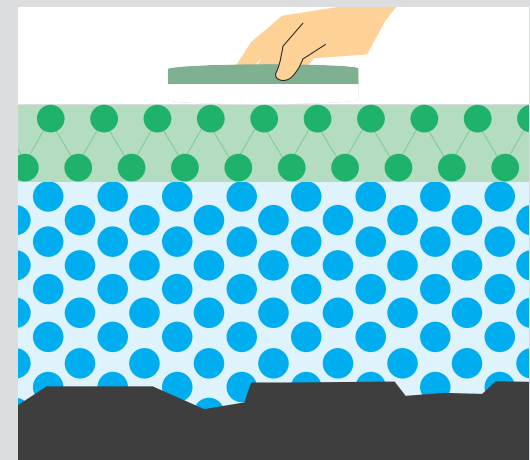
Bメンテナンスは下部のガラス被膜を整え、新鮮なECOプラスレジンを被膜に入れ替えます。



爆ツヤ(爆白ONE)でコーティング被膜を洗浄し



ガラス被膜を補強してから



新鮮なECOプラスレジンを被膜に入れ替える

エコダイヤキーパー

ECO DIAMOND KEEPER

Aメンテナンス

Aメンテナンスで使用するツール

STEP.2 Eクリーナーで前処理 STEP.3 ECOプラスレジン

- Eクリーナー(1.7L)
- スポンジ 青
- ECOプラスレジン
- ECOレジン用スポンジ
- レジンクロス



●KeePer
チェックライト



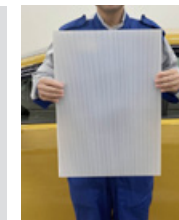
●快洗Taoる



●キーパークロス



●EXチェックボード



Aメンテナンス 作業の流れ

STEP.1 洗車

P 2



オプション **鉄粉取り** (鉄粉が付着している場合)

P 22

STEP.2 Eクリーナーで前処理

P2~P5

STEP.3 ECOプラスレジン

P6~P10



夏2時間~冬5時間の自然硬化またはコーティングホールド

STEP. 1 洗車

① 手洗い又は、洗車機で水洗いをする



STEP. 2 Eクリーナーで前処理

塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

① Eクリーナーを逆さまにしてよく振る。

⚠ 注意

- 小分けボトルを逆さまにして、5回以上よく振ってください。
- Eクリーナー（1.7L）を小分けボトルに移し替える際も、よく降ってから移し替えてください。



② 水で湿らせ固く絞った青スポンジにEクリーナーを適量付ける。

*太線1本



STEP.2 Eクリーナーで前処理

③ Eクリーナーを塗り広げて、
クロスの方に軽くスポンジを動かして、汚れを取る。

👉 参考

- 1スパンをボンネット半分程度の大きさで、隙間なくフチまで塗り広げる。
- 汚れが多い場合は、事前に爆ツヤもしくは爆白ONEで洗浄し、その後洗車をし、よくすすいだ後に「Eクリーナー」の作業を行う

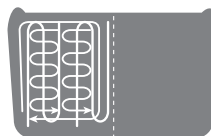
*塗り広げる



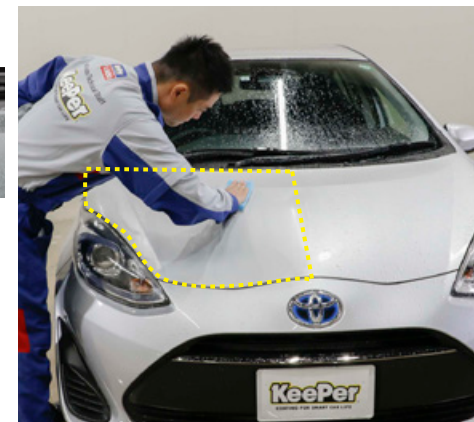
スポンジの持ち方。



*汚れを取る



スポンジの持ち方。



④ ボディ全体に②③を繰り返す。



作業の流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→
 左後ルーフ→左前ルーフ→左ボンネット→
 右ボンネット→右フロントフェンダー→
 右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→
 リア周り→左リアフェンダー→左後ドア→
 左前ドア→左フロントフェンダー→
 フロント周り



STEP.2 Eクリーナーで前処理

⑤ エアガンで、隙間に入った水滴、粉を軽く吹き飛ばす。

ポイント

- ワイパー廻り
- タイヤ・ホイール
- バイザー
- 給油口
- アンテナ
- ドアミラー
- ドアノブ
- フロントグリル



⑥ キーパークロスで拭き取る。 窓ガラスに付いたEクリーナーは、 快洗タオル(赤)で拭き上げる。



注意

- 白い粉が出やすいので気をつけて拭き上げる。



作業の流れ

右前ルーフ→エンジン掛け→右前窓→
右前ドア→右後ルーフ→右後窓→
右後ドア→右リアフェンダー→リア周り→
左リアフェンダー→左後ルーフ→左後窓→
左後ドア→左前ルーフ→左前窓→左前ドア→
左ボンネット→左フロントフェンダー→
フロント周り→右ボンネット→
右フロントフェンダー

※脚立有りの場合はルーフを先に仕上げる。



STEP.2 Eクリーナーで前処理

⑦ ボディの内側に付いた Eクリーナーの白い粉をキレイに拭き取る。



注意

- ボディの内側は専用の快洗タオル(白)を用い、キレイな面を常に使用する。



参考

- ボディの内側などにゴミや枯葉などがある場合は取り除く。



⑧ 水滴、拭き残しがないか確認する。



STEP. 3 ECOプラスレジン

① 「ECOプラスレジン用スポンジ」に「ECOプラスレジン」を適量つける

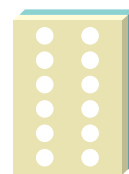
⚠ 注意:

- ECOプラスレジンは、開封後も冷蔵(凍)保管で36時間後も使用可能です。

*キャップの開け方
下に押し込みながら
反時計回りに回します。



*最初は12滴



*以降は6滴



② ボンネット1/4位の面積に タテヨコに隙間なく フチまで塗り広げる

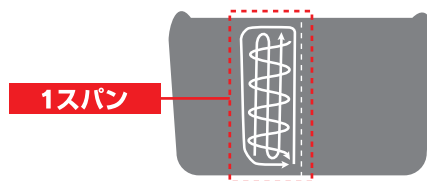
👉 参考

- 「ECOプラスレジン用スポンジ」の動きが重く感じたら「ECOプラスレジン」を足してください。

⚠ 注意:

- 1スパンの面積をボンネット1/4よりも広くしないでください。(被膜として必要な厚みが確保できません)

*スポンジの動き



*スポンジの持ち方
軽く掴むように持つ

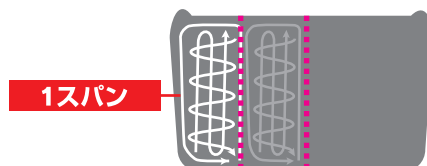


③ とんりのスパンに、 ①～②の作業を繰り返す

👉 参考

- とんりのスパンと少し重なるようにして隙間なく塗り広げてください。

*スポンジの動き



STEP.4 ECOプラスレジン

4 1枚目の乾いた「レジंकロス」で クロスの面を換えながら2回拭く

参考

- 「ECOプラスレジン」が乾く前に速やかに拭き上げてください。
- 拭き取りにくくなったら、「レジंकロス」を換えてください。
- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

*クロスの動き



*クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む



5 2枚目の乾いた「レジंकロス」で クロスの面を換えながら1回仕上げ拭き

参考

- クロスは面を換えて拭き上げてください。
- 「レジंकロス」はどちらの面を使用しても仕上がりに差はありません。

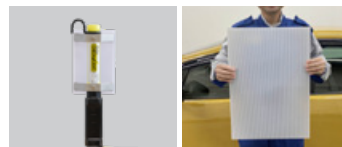
*クロスの動き



6 1パネル毎に拭き残しが ないか 3枚目の乾いた「レジंकロス」で確認

参考

- ECOプラスレジン、拭き残しが固まって拭けなくなるため（クリーナーで取れる）濃色車・淡色車でも容易に拭き残しが確認できる「Keeperチェックライト」・「EXチェックボード」の使用を推奨しています。
- 拭き残しがなければ、余計に拭く必要はありません。



ライトで塗装面を照らして、ライトの映り込みを見ながら拭き残しをチェックする

STEP.4 ECOプラスレジン

7 ボディ全体に①～⑥の作業を行う

⚠ 注意:

- エンブレムやドアノブなど、細かな部分に「ECOプラスレジン」が入り込まないように注意してください。
- もし「ECOプラスレジン」が隙間に入った場合は、エアーガンで吹き飛ばしてください。



エコプラスレジンコーティングの流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→
左後ルーフ→左前ルーフ→左ボンネット→
右ボンネット→右フロントフェンダー→
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→
リア周り→左リアフェンダー→左後ドア→
左前ドア→左フロントフェンダー→
フロント周り

※作業の途中で、拭き取りにくくなったら「レジンクロス」を換えてください。

※作業の途中で、塗り広げにくくなったら「ECOプラスレジン用スポンジ」を換えてください。



STEP.4 ECOプラスレジン

8 仕上がり確認

参考

- ボディは「Keeperチェックライト (推奨)」を使用し、拭き残しがないか確認。
拭き残しがあれば、乾いた「レジックロス」で仕上げ拭き。
- 窓、レンズ類、樹脂パーツは、
水で固く絞った「キーパークロス」で拭き上げます。
- 上面は、蛍光灯などの映り込みを見ながら
拭き残しがないか確認できます。
- 濃色車は、側面のボディに映り込んだ「白いボード」等に
拭き残しがないか確認できます。

使用ツール
キーパークロス



上面
蛍光灯などの映り込みを見ながら
拭き残しがないか確認できます。



側面
濃色車は、ボディに映り込んだ「白いボード」に
拭き残しがないか確認できます。



チェックライト
白い車(淡色車)は「チェックライト」で
拭き残しを確認します。

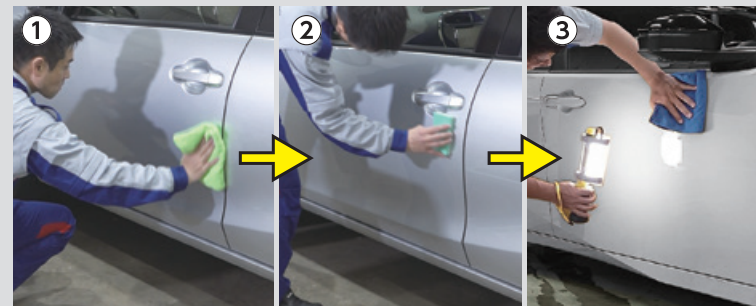
● 拭き残しが固まって取れない場合は、一旦、ECOプラスクリーナーですべてを取り除いてやり直しです

- ① ECOプラスクリーナーをキーパークロスに大きくWを描くように付けて、
1パネル全体にタテヨコ隙間なく擦って拭き取る
- ② 拭き残しが取れたことを確認してから一層目の
ダイヤモンドキーパーケミカル、二層目のECOプラスレジンを施工
- ③ 「Keeperチェックライト (推奨)」で拭き残しがないか確認し完了

⚠ 注意:

- 1パネル全体を行う理由は、ECOプラスレジン
施工時間が経ってから重ねて塗るとムラになる場合があるためです

使用ツール
ECOプラスクリーナー



STEP.4 ECOプラスレジン

⑨ 屋内で夏2時間～冬5時間の自然硬化

もしくはコーティングホールドの作業を行う

👉 参考

- ECOダイヤキーパー A・標準メンテナンスは、すべてを施工した後、水や雨に濡れない環境ならば「夏2時間～冬5時間」の自然硬化をさせて完了です。すぐに室外に出して雨などに濡れる可能性がある場合は、**施工後10分間**置いてから「コーティングホールドの作業」を行い、完了です。



コーティングホールドを行う場合

1 「コーティングホールド」の作業を行う

参考

- 屋内で「夏2時間～冬5時間」の自然硬化と、コーティングホールドで時間短縮をした場合では仕上がり品質は変わりません。

コーティングホールドを行う場合の使用ツール
(左)コーティングホールド、コーティングホールド用蓄圧式スプレー、キーパークロス
(右)純水、純水用蓄圧式スプレー、快洗Taoる



ECOタイヤキーパー施工後、必ず「10分間置いてから」作業する

- ① 「コーティングホールド」をボディ全体に噴霧
- ② 「コーティングホールド」を噴霧した「キーパークロス」でボディを拭き押さえる
- ③ ボディ全体に蓄圧式スプレーなどで「純水」をたっぷりかける
- ④ 「快洗Taoる」で、ボディにかけた「純水」を拭き上げる
- ⑤ 窓、レンズ類、樹脂パーツを、水で固く絞った「キーパークロス」で拭き上げる
- ⑥ 水滴残りがいないか確認

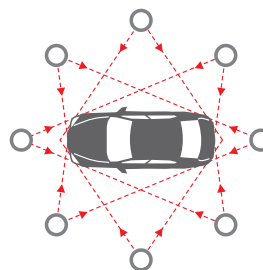


2 最終確認

もう一度、全体がしっかりコーティングがされているか、拭き残しがないか、いろいろな角度から確認します。

参考

- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。



エコダイヤキーパー

ECO DIAMOND KEEPER

Bメンテナンス

Bメンテナンスで使用するツール

<p>STEP.2 汚れ落とし(コーティング前処理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●爆ツヤ ●爆ツヤ専用小分けボトル ●スポンジ 青 ●キーパークロス ●快洗Taoる 	<p>STEP.3 ガラスコーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ダイヤモンドキーパーケミカル ●スポンジ 黄 ●ダイヤクロス ●蓄圧式水スプレー 	<p>STEP.4 ECOプラスレジン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ECOプラスレジン ●ECOレジン用スポンジ ●レジンクロス ●KeePerチェックライト ●EXチェックボード 
--	--	--

Bメンテナンス 作業の流れ



STEP. 1 洗車

- ① 手洗い又は、洗車機で水洗いをします



STEP. 2 汚れ落とし(コーティング前処理)

洗車後、ボディが濡れた状態で作業を行う

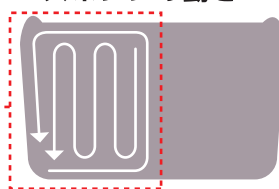
- ① 「爆ツヤ」を「スポンジ 青」に適量取る

*太線1本



- ② ボンネット半分位の面積に
一定方向に隙間なく
フチまで塗り広げる

*塗り広げる時の
スポンジの動き

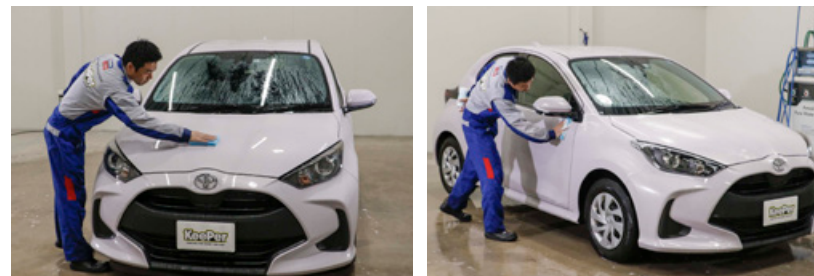


*塗り広げる時の
スポンジの押さえ方
支えるように
軽く押さえる。



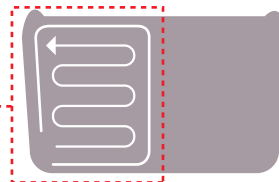
STEP.2 汚れ落とし(コーティング前処理)

③ 3スパンまで①②の作業を繰り返す

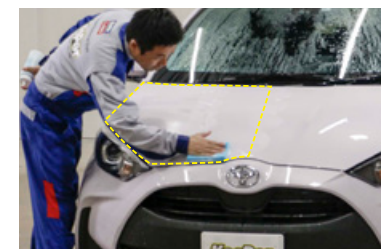


④ 1スパン目に戻って、 塗り広げた塗装面を 軽くこする(汚れを動かす)

*軽くこする時の
スポンジの動き



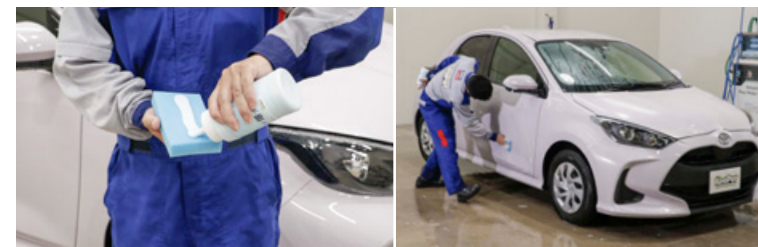
*塗り広げる時の
スポンジの押さえ方
支えるように
軽く押さえる。



⑤ ボディ全体に①～④の作業を行う

⚠ 注意:

- 作業中ボディが乾きそうな時には、水をかけて乾かないようにすると作業が早く済みます。(乾いても塗装に害はありません)
- ガラス面に撥水加工されているお車の場合、撥水効果が落ちることがあります。液ダレしないように注意してください。



作業の流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→左後ルーフ→左前ルーフ→左ボンネット→右ボンネット→右フロントフェンダー→
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→リア周り→左リアフェンダー→左後ドア→左前ドア→左フロントフェンダー→フロント周り

STEP.2 汚れ落とし(コーティング前処理)

⑥ 「爆ツヤ」をしっかりと洗い流す



● 隙間や細かい部分を特にしっかりと洗い流します。



STEP. 3 ガラスコーティング

塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

炎天下を避け、日陰でボディを冷まして作業をしてください。



注意:

- 天下やボディが熱い状態で施工すると急激な反応により、塗りムラや拭きづらくなるといった現象が出る場合があります。ボディが熱い場合は、予め水をかけるなどして、よく冷ましてから施工してください。



① フロントガラスの上部にタオルを当てておく



● ケミカルを含んだ水がフロントガラスに垂れないようにタオルを当てておく。もしダイヤモンドキーパーケミカルがガラス面についてもクロスで拭けば取れます。



STEP.3 ガラスコーティング

② 水に湿らせ固く絞った「スポンジ(黄)」に「ダイヤモンドキーパーケミカル」をスプレー

👉 参考

- 飛散した「ダイヤモンドキーパーケミカル」が付着しないよう、車に背を向けて、スプレーノズルと「スポンジ 黄」を近づけてスプレーします。

*最初は2往復 (Wの字) *以降は1往復 (Vの字)



③ ボンネット半分位一定方向に「隙間」なくフチまでしっかり塗り広げる。

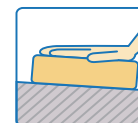
👉 参考

- スポンジ(黄)がボディの水分を含んできたら、絞ってダイヤモンドキーパーケミカルを足してください。
- スポンジの動きが重く感じたら「ダイヤモンドキーパーケミカル」を足してください。
- 1スパンの面積をボンネット半分の面積よりも広くしないでください。(被膜として必要な厚みが確保できません)

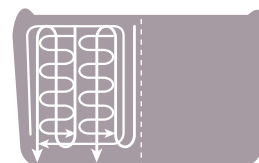
*スポンジの動き



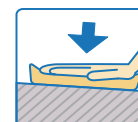
*スポンジの持ち方
スポンジを支えるように軽く押さえます。



④ ③で塗り広げた範囲をクロス方向にすり込み、ガラス被膜を定着させる



*スポンジの持ち方
手のひら全体でスポンジが半分へこむ位の力で押さえる



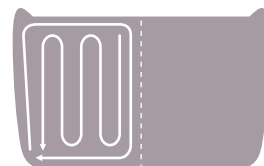
STEP.3 ガラスコーティング

⑤ 1枚目の固く絞った「ダイヤクロス」で拭く

👉 参考

- ケミカルが硬化する前に拭き上げてください。

*クロスの動き



*クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む



⑥ 2枚目の乾いた「ダイヤクロス」で仕上げる

👉 参考

- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

*クロスの動き



*クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む



⑦ ボディ全体に①～⑥の作業を行う

⚠ 注意:

- 常にボディが濡れた状態で作業をしてください。
ボディが乾きそうなときは水スプレーを使ってボディを濡らしてください。
- ウィンドウガラスの水滴は乾く前に拭き取ります。



作業の流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→左後ルーフ→左前ルーフ→左ボンネット→右ボンネット→右フロントフェンダー→
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→リア周り→左リアフェンダー→左後ドア→左前ドア→左フロントフェンダー→フロント周り

STEP.3 ガラスコーティング

8 エアーガンでタオルで拭けない 「隙間」の水を飛ばす

👉 参考

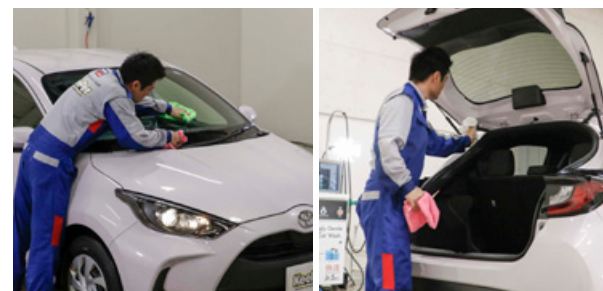
- ドアミラー、ドアノブ、ワイパー周り、バイザー内側、給油口、アンテナ、ホイール・タイヤ、フロントグリルは、特に念入りに行います。



9 ボディ、窓、ステップ、 ボンネット裏の水を拭き取る

⚠️ 注意:

- ステップ、ボンネット裏は砂やホコリ等が付着するので、別のタオルを使用してください。窓ガラス、ボディで使用するとキズの原因になります。

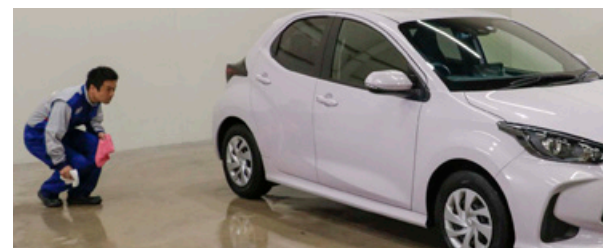
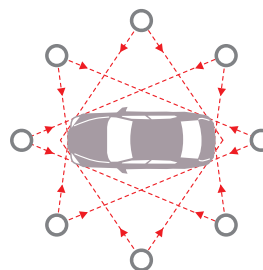


10 拭き残しなどを確認

施工を終えたら、いろいろな角度から施工車を見て、拭き残しがないか確認します。

👉 参考

- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。



STEP.3 ガラスコーティング

ワンポイントアドバイス

●スポンジの正しい押さえ方 塗り広げて被膜を形成させる時



手に力を入れずにボディに置く。



そのままの感触でスポンジの上に乗せる。



そのままの状態ですり広げる。

被膜を定着させる時



指先を体の内側へ向けるように手首を曲げる。



スポンジが半分へこむ程度、手のひらで押さえる。



リズムカルに力を入れて定着させる。

× NG



つまむように持つ。

× NG



押さえる力が均等でなく、塗装面に均等に接していない。

●拭き残しが取れない場合は…

ダイヤモンドキーパーケミカルを黄スポンジに少量付け、その部分を軽くこすってから、速やかに拭き取りましょう。

●飛散したダイヤモンドキーパーケミカルがボディ以外に付いた場合は…

ウィンドウガラス編

窓用クリーナーなどを、キーパークロスに付けてこすると簡単に落ちます。

ゴム、プラスチック編

湿らせて固く絞ったキーパークロスで拭き取ります。

STEP. 4 ECOプラスレジン

① ECOプラスレジンコーティングを 施工する

施工内容は

「A・標準メンテナンス STEP4:ECOプラスレジン」参照

参照ページ：P6～P10



② 屋内で夏2時間～冬5時間の自然硬化 もしくはコーティングホールドの作業を行う

👉 参考

- ECOダイヤキーパーは、すべてを施工した後、水や雨に濡れない環境ならば「夏2時間～冬5時間」の自然硬化して完了です。
- すぐに室外に出して雨などに濡れる可能性がある場合は、施工後10分間置いてから「コーティングホールドの作業」を行い、完了です。

コーティングホールドの施工内容は

「A・標準メンテナンス STEP4:エコプラスレジン」参照

参照ページ：P11



① オプション(鉄粉が付着している場合)

鉄粉取り

塗装面に鉄粉が付着している場合のみ
行います



⚠ 注意: 塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

鉄粉取りで使用するツール

- ピュアアップ4
- アイアンイーター
- トラップ粘土 青



STEP.1 | ピュアアップ4

- ① 洗車を行い、濡れた塗装面にピュアアップ4を
ボンネット半分程度にスプレーし
手で伸ばす



- ② 30~40cm四方を1スパンとし
トラップ粘土(青)でタテヨコに素早くこする

⚠ 注意

- ピュアアップ4が乾かないように注意してください。

👉 参考

- ボディが乾きそうになったら水をかけてください。
- 鉄粉が取れたか、手で確認しながら作業を行ってください。



- ③ ①~②の作業を
鉄粉の付着している箇所に行う

⚠ 注意

- 鋭角なプレスラインは、またがないように作業してください。
- 1度地面に落とした粘土は廃棄し、使わないでください。



STEP.2 | 洗い流し

- ① 水で洗い流す

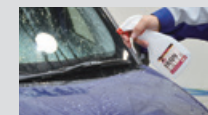
⚠ 注意

- ピュアアップ4が乾いてこびり付いた場合は、
ファイナル1で擦ると取れます。



多量の鉄粉が付着している場合

用意するもの
●アイアンイーター
(鉄粉除去剤)



①濡れたボディに
アイアンイーターをスプレーする。



②日陰で乾かない程度に
つけ置く。



③洗い流し、
STEP.1~2の作業を行う。